

○第55回（令和4年1月25日）評価委員会評価

令和3年度は、7月5日～7日にかけて連携排砂が、8月10日、8月15日、8月25日に細砂通過放流が実施された。

出し平ダムからの排砂量は、目標排砂量約5万m³に対し、約9万m³となったが、想定変動範囲の0万m³～約11万m³の範囲内であった。

宇奈月ダムにおける連携排砂での土砂変動量は約3万m³の減少であった。

◇環境調査結果について

今回報告のあった、令和3年度の連携排砂及び細砂通過放流に関する環境調査結果からつぎの知見が得られた。

□水質調査について

- ・各指標は概ね既往の観測値と同程度であった。

□底質調査について

- ・各指標は概ね既往の観測値と同程度であった。

□水生生物調査について

- ・水生生物調査で確認された種数・個体数は概ね既往の変動の範囲内であった。

以上の水質、底質および水生生物の環境調査結果をみる限り、今年度の連携排砂及び細砂通過放流に伴い、環境指標の観測値に一時的な変動は認められるものの、周囲の環境に大きな影響を及ぼしたとは考えられない。

◇宇奈月ダム先行操作の効果について

令和3年度における連携排砂時の雨の降り方の特徴として、梅雨前線による連続的な降雨があり、その中で実施された宇奈月ダム先行操作の効果は以下の内容であった。

- ・宇奈月ダムについては、先行操作により従来操作に比較して自然流下状態が

長く維持されたことや、自然流下開始直前の出し平ダムからの流入量が増加したことにより、流入土砂量の多くを下流に排出することが出来たことから、結果として年間の堆積土砂量の増加を抑えることが出来た。

- ・出し平ダムについては、ゲート操作を遅らせたことにより従来操作に比較して自然流下状態が短縮されたものの、目標排砂量の想定変動範囲内の排砂を実施することが出来た。
- ・連携排砂における宇奈月ダム直下のSSピーク濃度では、従来操作に比べて先行操作では約2割の減少効果が見られた。
- ・河床低下の防止や礫河原の再生に寄与する粗い粒径（70～500mm）の土砂供給量が、連携排砂を通じて、宇奈月ダム直下地点において従来操作に比べて約2倍の効果が見られた。

◇大粒径土砂の移動状況調査について

- ・宇奈月ダム貯水池上流に存在する10～50cm程度の大粒径土砂の一部が、連携排砂により貯水池下流やダム下流へ移動することが確認された。

◇今後の留意点

- ・宇奈月ダム先行操作については、来年度も試験運用を継続すること。
- ・また、次年度の大粒径土砂の移動状況調査に向けて、今年度調査で複数の大粒径土砂が留まることが確認された宇奈月ダム貯水池内の状況を確認できるよう検討すること。
- ・土砂動態資料について、経年変化も含め、わかりやすく整理すること。
- ・環境調査については、短期と長期の両方の視点をもって、調査方法の検討及びデータ整理を行うこと。

以上